

滑枕音圖會前編
下

13
970
2

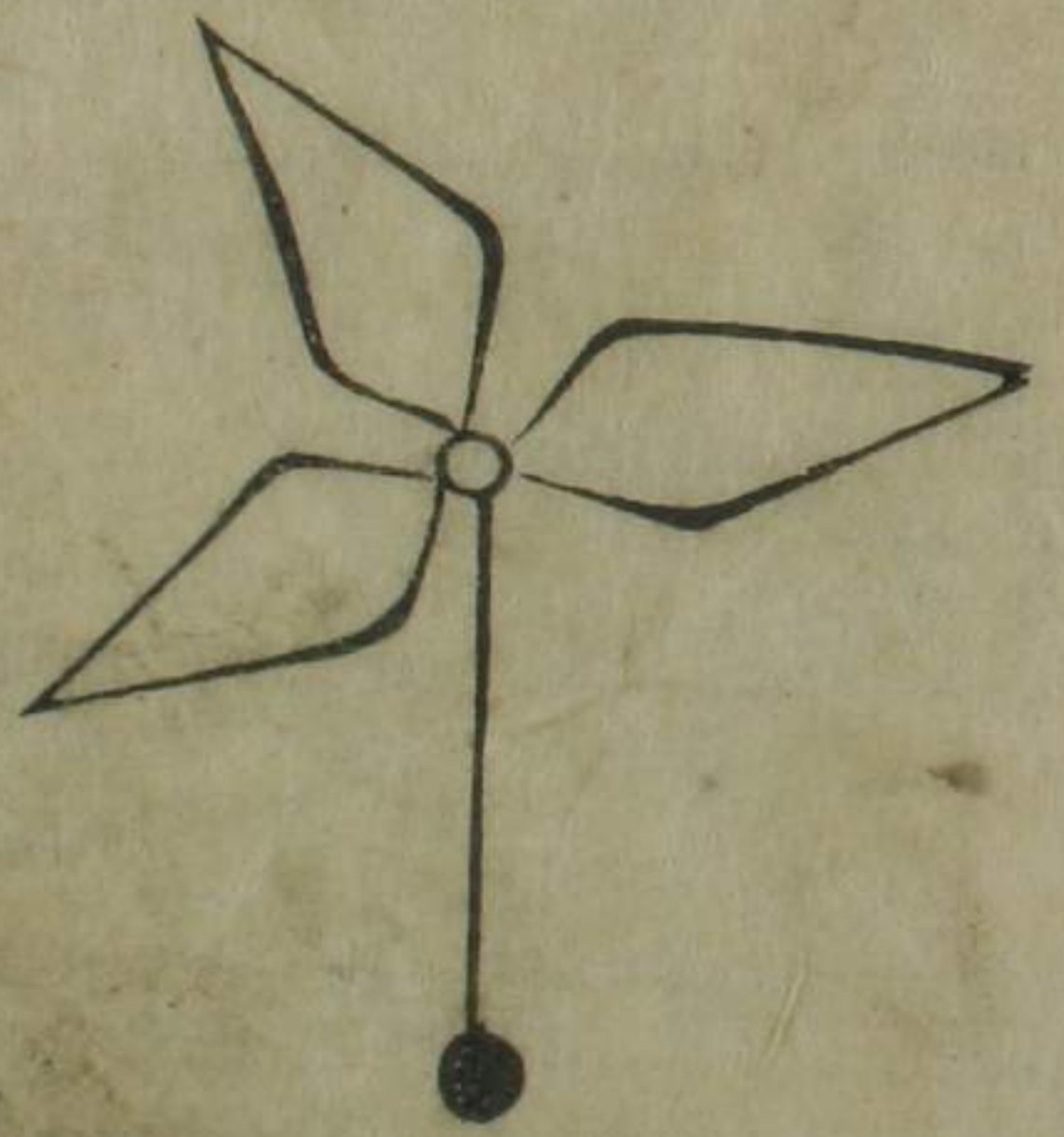


門遠 13
號 970
卷 2



上ウラ

ある池いけに
○ 表うらに 宗むね物もの
糸いとと 物もの
いそ
と 三つ 法はけこ
あ、わ、わ、わ、
い、や、そ、い、ま、も、
ふ、う、い、さ、う、い、
ま、づ、を、う、や、う、
お、ろ、し、し、し、
あ、ま、ち、て、
羽は根ね



Vertical text on a paper strip, possibly a library or collection label.



Bottom right text on the reverse side.

○家の帆柱

ふらふらな二重櫓の

親仁つい横町、ひとび

むすこおれ枝をついて

ひらき
しりされと
出せ

あ
老る
おいてはもう

追風

おまぐとら



上
○鍋お醫者

甲玄伯さんけつらり 箱の下よ

口このうら塊が出来ま

支根、このうらふ

ちや
おさうらんぞ

狗、このうらふ

ふさおますすがらひまあ

おんでムりやんといへ

らてやんらあやくでびび



冬之味圖會

上うへ こ ○ ちのの飲食いやし

こらの食た太と糸いハ物ものを

くいこづるちつくくちや素けふ

からまんぢうと ○ ひら

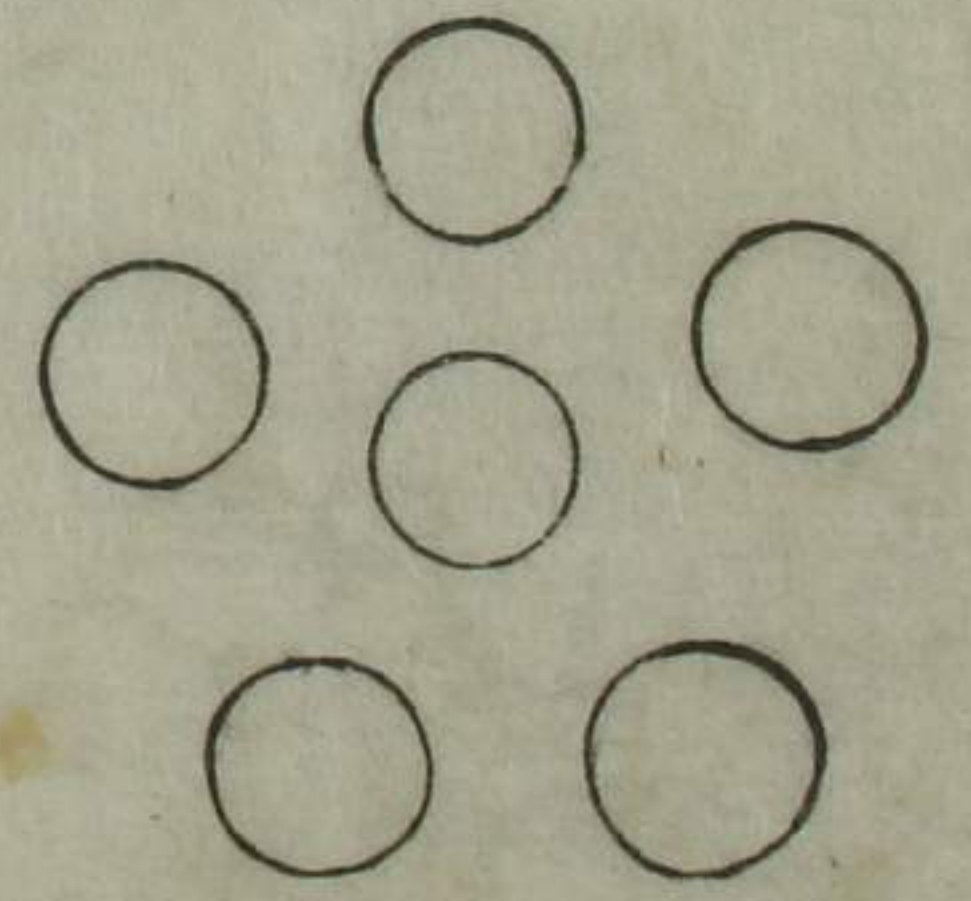
やつしまきよくいおつく

又またせがじうくんどいハ

二につ ○ ○ やつしまぢうとうくくしま

おいしよつつあつくくしまぢうとうくくしま

○ ○ ちの一いちの食いおつしまぢうとうくくしま
痺しびるしい



上うへ ま ○ 紋もん家けの勢せい力りき

門もん法ぽう家けハ結むす構かまな家け筋すぢぢや

とこ夜よ西せい六ろく條じょう大だい坂さかの講かう中ちゆうが

仕し法ぽうと徳とくふくくく ○ 下げが

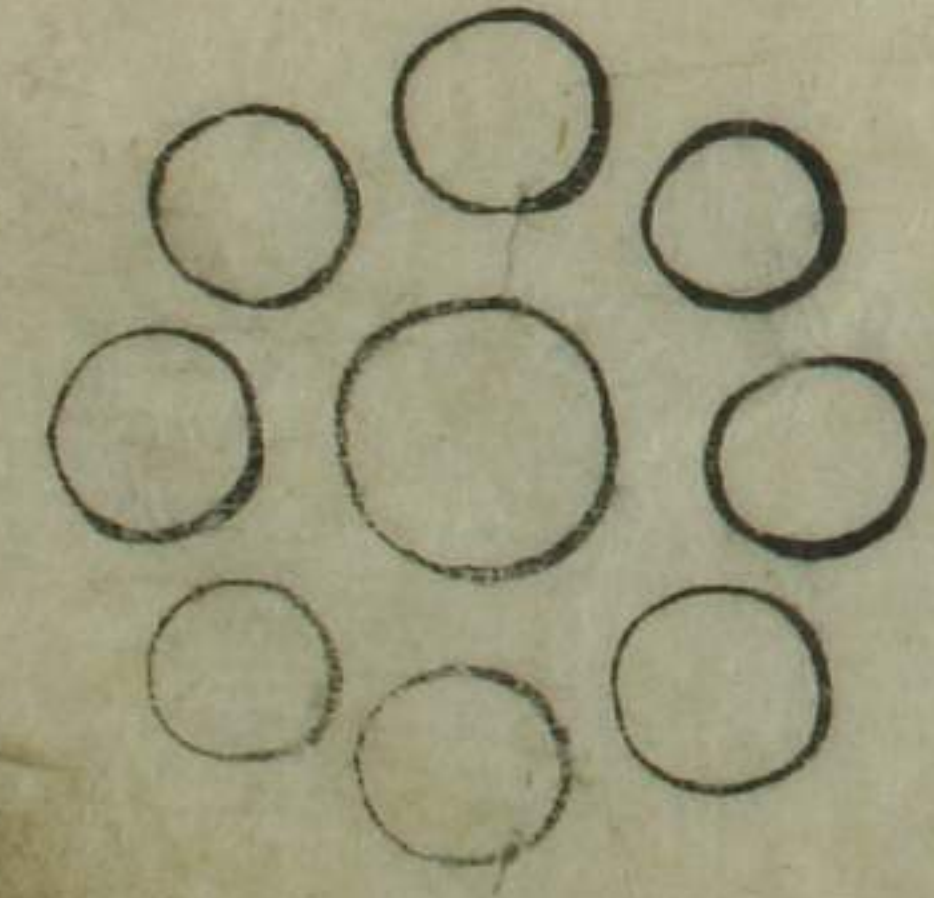
何なにがあららくくくく ○ 下げが

あらららくく ○ 下げがらりりくく

○ ○ 下げがらりりくく

ままがなんとあらひりのどやないい

ししのちぢぢららまま法ぽう構かまがらくくややままくく何なにもも



九く曜やう

上々

○きつ子のる我

「六ちのうゝ毎根柢がはたぶ

まのりますさういんくもらい

まゝゝゝ「六ちや柢福でま

ばさういんやふ香念と

達と祭うがふといんやゆふ

子くゝのふは

↑ 達とついでと十女



上々

○トの考

「や西晉法ハ大々尾付まゝとた根

「り株を旦の積つてうらふります

先生ハ家相と流儀かきさる

さうなが何とぞいらん下され

の仙意古き

「りますかすそま

「の折る「ります丸い同くむいかなりものと叩

「か根が枝



一昭上

○世帯の兵者

威风強然と一々兵者右手ハ

楯とちた手ハ大に鉄弓と

小振りとさそ大に此のつとハ

ふふつびらくやいな辰の

一天小四りくくと

を来たる火花とち

戦ふもの世帯平記のうらに天王の

楯に 巻



巻金の

上

○貴方の号名

子切居れお梅さんハ一人娘ハ親の

秘蔵する若トやまが黒髪が一もんさて

徳蔵が一もんきくおまき

小車すぐくおまき

うらが魚のうらてが

なみ田へおれ町とる

人毎一こな

玉

玉トヤ

玉トヤ

玉トヤ

上ヒキ ○ 商人あきんどの耳みみ長なが

あうあう又また下くだ巻まららぬぬううささぎぎが

ああららがが丘かみ忌いああ道みちがが他ほかトトややららううが

色いろ来きたのの名な人ひとトトややつつががららいいが

金かね針はりああ小こすするるがが買かいいままるるんん

ららののややとと他ほかトトややかかいいららが

ままちちつつととああねねははげげままささにに
ままちちああいいままああははええつつ

直直 根ねつつけけくく見みままままちちややうう



上ヒキ ○ 酒さけののいいづづもももも

ををいいのの油あぶらにに比ひ色いろれれ油あぶらししららくく

ううううびびままななりりトトややゆゆふふ

ななららくくととららろろががああららるるにに人ひと

あありりととつつううううとと巖い石いしがが

ああららてて

ままああくく法は利りととつつんんやや

桃もも子こ花はなののううつつししららかか



一喝上いっぺんあがり

○ 玄紫の玉結こゝろむすび

白石しやくのお姫ひめと珠たまさんととん夜よううあんな

うがいとまゝさあんなかんざしとやつてと

返へんりりがなないいああいいささ

法ほうとと小こ下げ女にょととままりり後ごうう

付つてて一いっととひひぢぢののれれううのの

お姫ひめががおおままののももととままりりああんなんながが口くち

Pへとと脊せ中ちゆうとと二につつつつららううままりりのの

ありありりががささ小こ首くび筋すぢううづづつつととううままりりののああんなんな命いのちめ

命

上あがり

○ 香燭の御守かろうのごまもり

けけいいなな火ひ法ほう小こ決けつええと

渡わたりししとと獨ひとりりりととままりりああいいささ

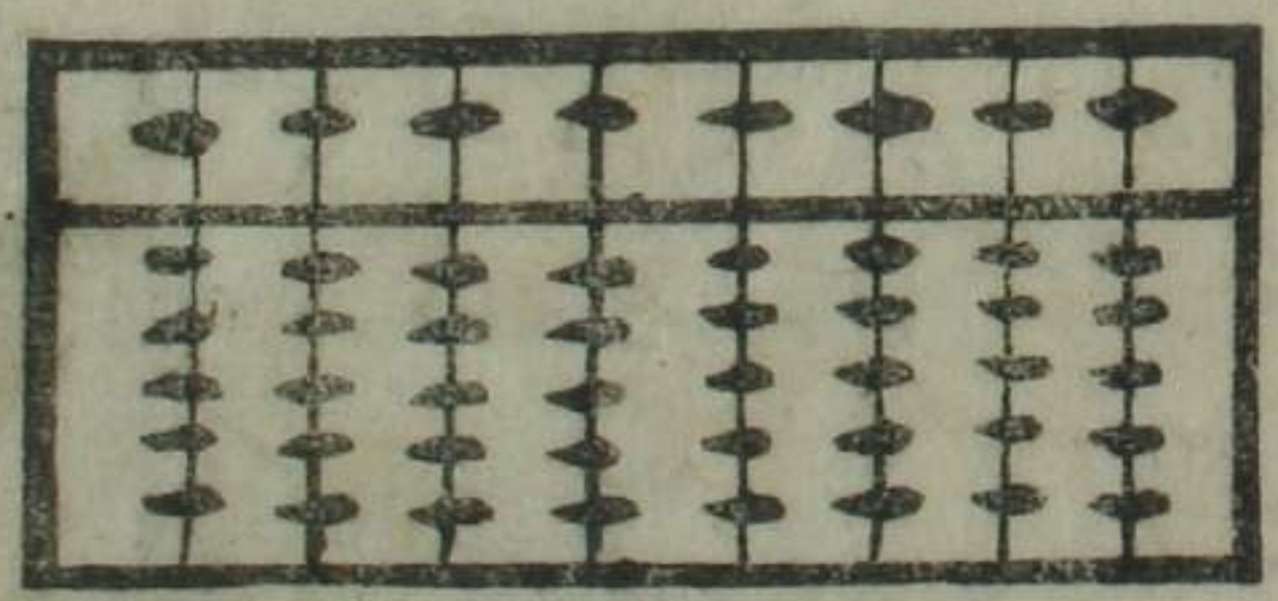
ああののううまま

縁いづのの白しろ法ほう

ああぶぶままりりととままりりああいいささ

半ま松まつののああいいささととままりりああいいささ

いいななののううままりりああいいささととままりりああいいささ



會本所圖書印

上々吉切 ○ 芭翁の秋風

禍の門を、禍の根、金人の銘を、
言、汝多き、みなる、れい、
こ、い、もの、や、つ、一、
あ、い、が、た、い、つ、云、つ、の、
履、ま、い、と、する、の、は、め、よ、
あ、が、つ、
ま、ん、ま、
か、つ、
内、
あ、い、さ、つ、
は、



あ、い、さ、つ、
ま、ん、ま、
か、つ、
内、
あ、い、さ、つ、
は、

三歎上切

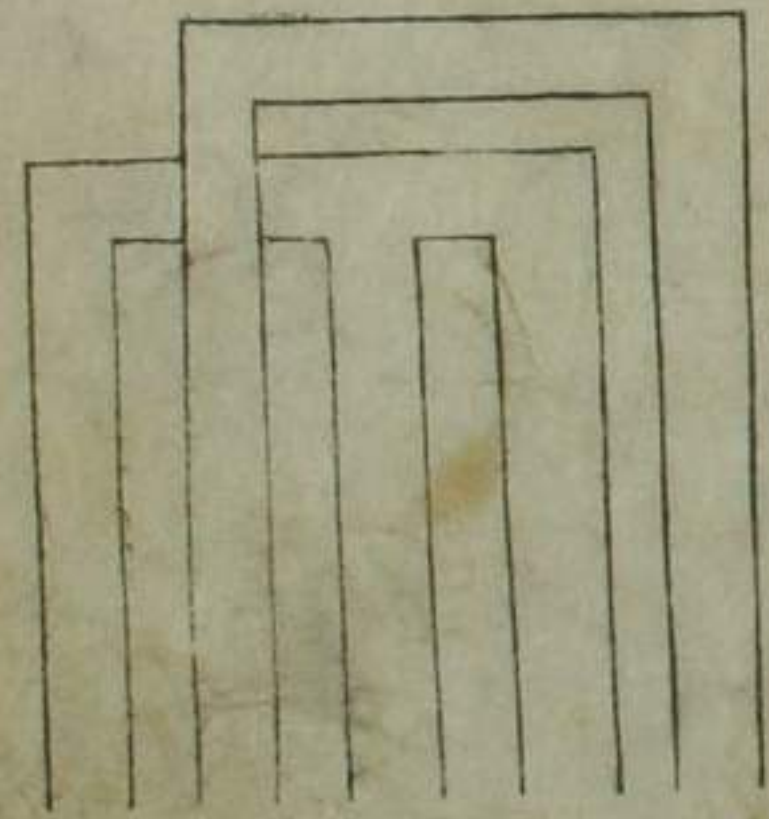
○ 源氏の夢

け、る、ち、る、御、殿、上、つ、る、
白、書、院、
恒、と、結、花、の、
源、氏、の、間、が、大、く、
ひ、る、志、り、
あ、ま、り、
こ、も、私、
な、い、

御、殿、上、つ、る、
白、書、院、
恒、と、結、花、の、
源、氏、の、間、が、大、く、
ひ、る、志、り、
あ、ま、り、
こ、も、私、
な、い、

ひ、る、志、り、
あ、ま、り、
こ、も、私、
な、い、

あ、ま、り、
こ、も、私、
な、い、



入道

入道

舟

上

○蘭船の入津

お毛船と云ふぞ

このうな

そのじや●らんが穴がある

石火矢を打口じやさうな

入津するときはしゝの

やうないりをとおるに昔の

船一まぐ来ささうなまぐ

くるやうなとを

はたが出まうとて



上吉

○笑顔の任れに

系おうと始て浪花下つて女中任れに

まのり字煙草の沖の

系とゆる

一ハさんずると

白いものうんと

あはれ何ておまねと

あはれ知地陰をかくして

女中は社を

上 ○ 橋を白く

くまのつとと 彼橋杭のなみ 薩屋橋の

ふいて水と足ぬが 大川の 水坂 二つふと 遊く 出てく

ありやたまぬと を 磯の

後家 楊奴と 横街

なるくすの 内ん 中く 子 約紙と

らや あめふなりつと

雨

三敷極上々 ○ 鬼の目小洞

東の 條うお 焼なま 追く 杵木を

法園 うらまてらる 本流の 古衣と

加賀 越中 ありうらうら

今とふ 小来るが けあひ

るれ ちる回 ○ こんな 笠を

うがく けうふな 九太と 丹波と やあうふ



上かみ吉きち

○ 鱈うまのことななまま

鱈肉たらひからあけひるご鱈うまららり

来きとあらろろがつを食つごが

てめいららごごおらあなま

くつて隠ぶや糸いに戸い

いつてもた三さん支し武ぶ米まいと

六百ろっぴやうがいろろうう羽は根ねの

けいこのと買うつて食くつてひひららあ

ななふふ飛とびごひひとりひ



上かみ吉きち

○ 武ぶ士しのう人じん

けいるる都みやこへむつつ清きよ水みづ坂さかとあひひて

足あしままろろごごははろろのの女め湯ゆやゆ目めきき平へいと

すすののとと足あしをを履はききろろごごががぬぬが

ままののじじややままぐぐ口くちののよよな

ろろののろろとと女めととぬぬららつつあ

何なにかかののよよなな車くるまがある

毛けをを思おもいいろろととままるるううららふふああててととろろいい仕し業ぎやう

ららかかおお急いそぐぐららろろととままるるううららふふああててととろろいい仕し業ぎやう



上アツク

○顔うか見ミ世セの式しき

劇場あがハ何なに下くだでも顔うか見ミ世セで

浪なみ主しゅがが下くだ巻まきどやその浪なみ主しゅ

栞しやく藤ふじが京きやう大だい坂さかハ古ふるい

今いま交まじ飛ひ脚きゃくと今いまうらやま

き人ひとづ立たてと江え弁べんれ

雪ゆき簾すだや菊きくハ白しろ猿さるの

三人さんにん、
おちやいがいいころ
東郊とうきやう



上アツクと吉きち

○ゆゆ免めんれれ吉きち幸きやう

夕ゆふべ現げん像ざうと藤ふじのうらふふふぎや

けけ標ひょうが富士ふじの山やまと見ミるるののへへんんハ

いいつつももううららのの山やまれれぬぬががひひららひひののへへ

ままああくくととああぢぢのの山やまれれぬぬががひひららひひののへへ

ゆゆくくとと林はやしへへづづららととすすづづららおおちちらら

そそううとと今いま朝あさががけけいいふふなな面めんとと捨すてららるる

ややつつららりり夕ゆふのの巻まきががおおちちららるる福ふくぶぶららるる





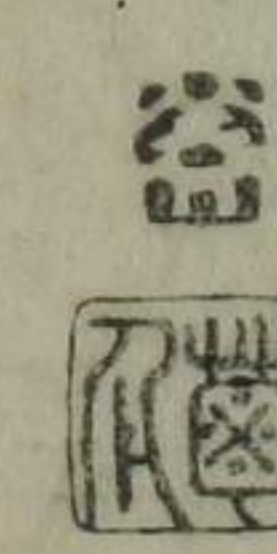
滑
我
名
新
思
結
初
善
結

角
お
あ
ハ

そ
尾
結
う

鴨
牛

時
成
自
画



三十三
三十三
三十三

